

令和6年度全日本少年少女武道（空手道）錬成大会試合規則

1 基本錬成

フロアの正面に台を設け、基本錬成指導員が突き、蹴り、受けを行い、参加者は指導員の号令に合わせて気合を発しながら行う。

2 試合錬成

- (1) 試合錬成はまず形団体戦を行い、各部・各ブロックの決勝トーナメント進出チーム（各ブロック上位8チーム）により組手団体戦を行う。
- (2) 形・組手とも登録選手は1チーム3名以上4名以内とし、そのうち3名が出場する。この3名は小学生の部は男女混成でもよい。なお、登録したチーム以外への選手の移動は一切認めない。違反したチームは反則負けとする。
- (3) 監督は1チーム1名とし、重複は認めない。資格は18歳以上とし、高校生は不可とする。

3 試合の運行

(1) 形競技

- ① 形団体戦は、各チームごとに指定されたコート控え場所で待機、係員の呼び出しにより入場し、任意の位置につき正面に礼をする。その際、選手の並び方は自由とする。なお、どのコートで演武するかは、当日配布のプログラムを参照のこと。
- ② 演武は、まず始めに演武する形名を呼称する。主審の短笛1回の合図の後、演武代表者の号令「始め」で開始（号令はかけなくてもよい）し、演武が終了したら礼をしてコート外に下がり、採点表示を待つ。得点宣言を受けた後、再び礼をして退場する。
- ③ 1回目は、全日本空手道連盟・基本形（平安・ピンアン・ゲキサイ）の中から選んで演武する。
- ④ 2回目は、1回目で演武していない基本形、または全日本空手道連盟第一指定形（ジオン・カンクウダイ・バツサイダイ・セイエンチン・セーパイ・サイファ・セイシャン・チントウ）の中から選んで演武する。
- ⑤ 競技は、5人の審判員による採点方式とし、その最高・最低を除く3人の合計点を得点とする。ただし、1、2回目の合計得点が同点の場合は、下記(ア)→(イ)→(ウ)→(エ)の順で比較し、点数の高いチームを勝者とする。(エ)で勝敗が決まらなかった場合は、再演武を行う。再演武は、基本形、または第一指定形を演武する。なお、1、2回目で演武した形を再度演武してもよい。
 - (ア) 1回目の演武で採用した最低点を比較
 - (イ) 2回目の演武で採用した最低点を比較
 - (ウ) 1回目の演武で採用した最高点を比較
 - (エ) 2回目の演武で採用した最高点を比較
- ⑥ 判定の基準は、原則としてチーム全体のまとまりを総合的に判定するが、主要な得点要素は下記の各項とする。
 - (ア) 団体行動すべてが整然としているか否か。
 - (イ) 礼が守られているか否か。
 - (ウ) 全体としての技の極め、スピード、安定度等。
- ⑦ 反則負け及び減点の対象については、(公財)全日本空手道連盟競技規定のとおりとするが、一部については、全日本少年少女武道（空手道）錬成大会申し合わせ事項（別紙）を適用する。
- ⑧ プログラムについては、システムの都合上、「平安」「ピンアン」は平安のみの表記となる。

(2) 組手競技

- ① 組手団体戦は、形団体戦各ブロックの上位 8 チームによりトーナメント方式で行う。
- ② 競技は、(公財)全日本空手道連盟空手規定に準拠して実施する。
- ③ 競技時間は、1分30秒フルタイムとする。
- ④ 勝敗は、時間内に6ポイント差が生じた場合、あるいは反則・棄権・失格、又は競技終了時に得点の多い選手を勝ちとする。競技終了時に同点で「先取」がない場合、1本の多い方の選手を、1本が同数の場合は技有の多い方の選手を勝ちとする。技有も同数の場合は、引き分けとする。
- ⑤ 組手団体戦の勝敗は、全員試合を終了した時点で勝者数の多い方を勝ちとする。勝者数が同数の場合は、ポイント数が多い方を勝ちとする。ポイントが同数の場合のみ代表戦を行う。
- ⑥ 定員数を下回り、2名の場合でも試合は成立する。ただし、先詰め出場とする。
- ⑦ チームの勝敗にかかわらず、全員(3名)の試合を行う。
- ⑧ 選手の出場順は、監督が試合ごとに所定の用紙に記入し、各コートの記録係に提出すること。
- ⑨ 安全具は各自で用意すること。全空連検定メンホーNo.7以上、ボディプロテクター(空手衣の中に着用)、拳サポーター(小学生は全空連検定小学生用赤・青リバーシブル拳サポーターとし、中学生は従来の赤・青拳サポーターとする)、インステップガード及びシンガードを着装すること。また小学3年生以上の男子は必ずセーフティカップを着用すること。小学1、2年生は、所属の監督の判断に委ねる。
- ⑩ 試合の審判団は、監査1名、主審1名、副審4名の構成で行う。

4 表 彰

- (1) 各部ごとに次の各賞を授与する。
 - (ア) 小学1・2年生の部、小学3・4年生の部、小学5・6年生の部
 - ① 優秀賞 (2チーム)
 - ② 優良賞 (2チーム)
 - ③ 敢闘賞 (4チーム)
 - ④ 努力賞 (8チーム)※①～③は閉会式にて授与する。④は随時授与する。
 - (イ) 中学生男子の部、中学生女子の部
 - ① 優秀賞 (1チーム)
 - ② 優良賞 (1チーム)
 - ③ 敢闘賞 (2チーム)
 - ④ 努力賞 (4チーム)※①～③は閉会式にて授与する。④は随時授与する。
- (2) 優秀賞のチームには日本武道館より優秀旗(持ち回り)を贈る。
- (3) 前年度の優秀賞受賞チームにはレプリカを授与する。

5 そ の 他

この「試合規則」の内容は、責任者のみならず各チームの監督も熟知しておくこと。

以上